たなかクラブだより令和３年１月号

大会名	種　目	成　　績
全日本卓球選手権大会	男子ジュニア	１回戦　遠藤駿　篠﨑悠太

１月に予定されていた神奈川県内の大会は全て中止されました。２月も中止の可能性があります。

全日本選手権　ジュニアの部に遠藤駿・篠崎悠太が出場

１月１８日大阪で全日本選手権が行われました。
テレビ放送もありたくさんの方がご覧になったと思いますが、男子及川瑞基、女子石川佳純選手が優勝しました。
決勝は男女とも準優勝の森園、伊藤美誠選手がそれぞれマッチポイントを取っていた場面もありましたが、最後は優勝への執念とも言える強い精神力で及川と石川が逆転優勝しました。
卓球の醍醐味を味わえた試合だったと思います。

東海林聖央　　遠藤駿　　篠崎悠太　山本煌翔

全日本選手権ジュニアの部にたなかクラブ出身の遠藤駿・篠崎悠太君が出場しました。結果は初戦敗退となりましたが、とても貴重な体験が出来たと思います。代表までの努力、全国の厳しさ、感謝など、この体験は今後に活かされます。
２人に全日本選手権出場の感想を下記に書いてもらいました。
左写真は全日本出場三浦学苑メンバー。
(このメンバーで昨年県新人戦団体優勝)

三浦学苑二年　遠藤駿

高校での目標の一つだった全日本出場は本当にうれしかったです。
試合は一回戦で広島の選手に一対三で負けましたが、この大会に備えて強化してきたバックやフォアのラリーはかなり成果がでました。
しかし、サーブからの三球目攻撃やここ一発、勝負しなければいけない時にループドライブになることが多く、途中から相手に慣れられて強打されてしまったのが敗因です。
全日本出場でたくさんのことを学びました。努力すれば大きな目標も達成できること、日本最大の大会を体験、このような大きな大会でしか味わえない緊張感など。この経験を今後に活かしたいと思います。

三浦学苑二年　篠崎悠太

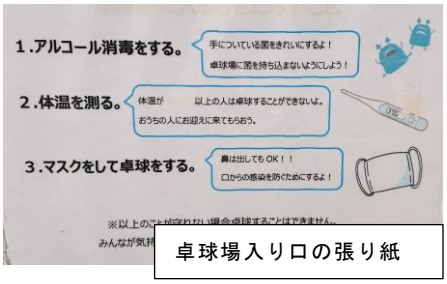
僕は高校の目標は全日本に出ることでした。しかし県予選の代表決定戦で負けてしまい、最後の出場枠で運良く出場することができました。
会場でとても緊張していた時に先生から「高校最初で最後の全日本なんだから思い切ってプレーしろよ」と声をかけられて少し緊張感が和らぎ試合することが出来ました。
対戦相手は名古屋の全日本カデットチャンピオンの選手で、予想以上に強く自分のプレーをさせてもらえませんでした。全国で一回勝つことはとても難しいと実感しました。
しかし、今回の経験はこれからの全国選抜、関東予選、インターハイ予選で勝つための貴重な経験になりました。
先生や友達、家族に感謝して卓球を続け、監督に良い結果報告ができるように頑張りたいと思います。

卓球場でコロナを発生させない！

非常事態宣言が出ています。
たなかクラブでは絶対にコロナ感染者を出さないために右のようなことを行なっています。

① 卓球場に入る時、出る時に必ず手指の消毒
② 体温を測り記録する
③ マスク着用
最初の非常事態時にかなり厳しくしていましたがその後ゆるくなっていました。
再度宣言が出て、再び確実に実施します。
④ 風邪の症状も練習を休む
⑤ 会員以外の卓球場使用禁止

自分・家族・仲間を守るため必ず実行しよう！



卓球場入り口の張り紙

検温記録表